

雑用に付加価値を付けることでダイヤモンドの原石に変わる

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田中 宏



日常の仕事には多くの雑用があります。そして、多くの人たちは、その、つまらない雑用を避ける傾向にあります。しかし、雑用の中にはダイヤモンドの原石が紛れているものなのです。

私が勤務する病院では2019年夏から生体肝移植が始まりました。生体肝移植といえば、移植後に吻合血管のIVRがつきもので、主に肝動脈、肝静脈、門脈のIVRになります。これまでカテーテルといえば、心臓・脳血管カテーテルしか経験したことがなく、肝移植後のIVRの情報は全くのゼロベースでしたので、メーカーや生体肝移植を行っている病院へ情報収集のために訪問しました。そして使用するであろうカテーテルなどの部材の見積もりとカタログを収集し、診療材料リストを作成しました。また、実際のIVRにおけるハイブリッド手術室のセッティングや手術の手順書を術者と打ち合わせし作成しました。問題になったのは術中の記録をだれが作成するかです。看護師か診療放射線技師か…。私はあえて、この雑用を引き受けました。IVRは主に吻合部の狭窄した血管へのバルーン拡張で、同じ患者を何度も繰り返し治療することがあります。IVRが終わると、毎回、術中記録を術者全員にメールで送信します。サブリミナル効果により診療放射線技師の存在感が増しますし、律義な医師は毎回お礼のメールを返信されます。そのお礼メールをさらに全員がサブリミナル的に目にするわけです。そ

して、複数回IVRを行っている患者の治療経過の情報を把握しているので、IVRが始まる前に術者と今回の治療についてディスカッションすることで、診療放射線技師の仕事に対する信頼度が上がります。そのため、ただ言われるがままにヤラサレ感満載で記録するのでは単なる雑用に終わりますが、メールで情報を術者全員に送信したり、治療経過を踏まえて術者とディスカッションすることで、ダイヤモンドの原石に変わるわけです。

また別の事例では、研究会や学会、職場での議事録は雑用的でありあまり人気がない仕事の一つですが、率先して引き受けるようにしましょう。議事録を作成すると、何時、どのような経緯で決まったのか、何が問題点だったのかを理解しないと作成できませんから、会議への参加が真剣になります。そうすると組織の動きが全て把握でき、何よりも、議題の要点を分かりやすく記録するという能力が身に付きます。要点をとらえた議事録と、そうでない議事録は見れば分かるものです。ですので、議事録を作成する訓練は、若いときに経験しておきましょう。

全ての雑用がダイヤモンドの原石に変わるかというと、そうではないと思いますが、雑用をダイヤモンドの原石に変えられるかはその人次第ということになります。雑用をダイヤモンドの原石に変えられる人は周囲から評価されますし、さらに重要な仕事を任されるはずで